

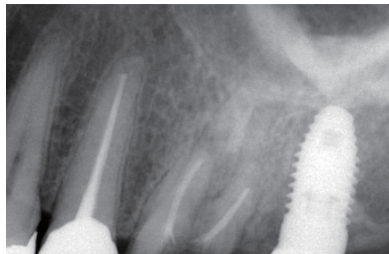
抜歯

『Piezosurgery® を利用した抜歯の 3 症例』

パール歯科クリニック（熊本県） 前田明浩

Piezosurgery® は骨移植やサイナスリフト等インプラント関連手術にのみ有効な機械と考えている先生方も多くいらっしゃるようです。しかし、硬組織は切除でき、軟組織は傷つけないという性質上、私は日常臨床での抜歯の際にも頻繁に活用しています。今回 Piezosurgery® を利用した抜歯の 3 症例を紹介いたします。

症例 ①



患者は左上 6 番の補綴物脱離を主訴に来院しました。7 番には当院で以前植立したインプラントが入っています。6 番は根分岐部まで齶蝕が及び保存不可能と診断しました。抜歯後はインプラントを希望されました。



隣にはインプラントがあり、抜歯後はインプラント予定のためできるだけ骨を保存しての慎重な抜歯が必要になります。



骨縁下まで齶蝕が進行しておりヘーベルのかけ所もないため、まず Piezosurgery® を使用して歯牙の全周にわたって骨との間にわずかに隙間を形成します。本症例では骨吸収を防止するため可能なフラップをあけずに抜歯をしたいと考えています。チップは EX-1。



舌側からも Piezosurgery® を使用しています。(写真右)



ゼクリアで歯牙に分割線を入れ、ヘーベルで慎重に分割します。事前に Piezosurgery® でわずかに歯牙と骨との間に空隙が作ってあるので骨の破折も防止できます。

症例 ②



まず近心頬側根を抜根しました。



次に遠心頬側根を抜根しました。



最後に口蓋根を抜根しました。中隔や周囲の骨も保存され周囲の粘膜への侵襲も少ない抜歯が行えました。



1 週間後、治癒は良好です。上皮の治癒後に根間中隔を拡大しインプラントを埋入する予定です。インプラント前堤で骨の温存を図るための抜歯の際に Piezosurgery® は大変有効だと感じています。



矯正のために左下 4 番(舌側の歯)の抜歯を依頼されました。経験上難抜歯と予測しました。

症例 ③



Piezosurgery® の EX1 を使用し歯牙の周囲骨を少しだけ除去します。



隣在歯との間にも隙間を作ります。この際も歯肉は傷つきませんので歯間乳頭が温存できます。



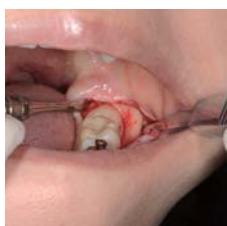
その後慎重に細いヘーベルで脱臼させ抜歯しました。隣在歯や周囲の粘膜に最小限の侵襲での抜歯が行えました。



左下 8 番水平埋伏歯の抜歯です。



術前の状態です。



切開、粘膜、骨膜剥離後、近心から頬側にかけての歯冠部と骨はゼクリアでカットしました。



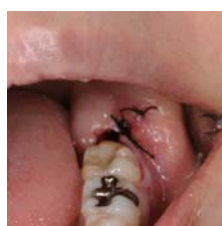
舌側から遠心にかけての骨はピエゾで削除していきます。従来の回転切削器具では粘膜を巻き込んだり神経損傷の恐れがあるため削除しにくかった部位でも安全に使用できます。



ヘーベルで脱臼させます。周囲骨の破折も起こさず迅速な抜歯ができました。



侵襲が少ないため少ない出血での抜歯が可能です。



縫合時にはほぼ止血している状態で終了しました。